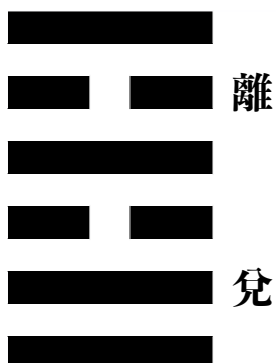


火沢睽



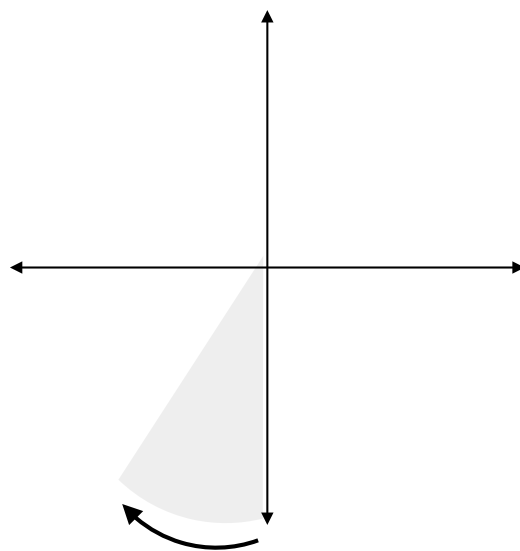
キーワード

1つだったものが分かれる・同根異枝・大同小異・坎が抜ける

納甲

主卦 艮

		丑	兄弟
	 	亥	妻財
世		酉	子孫
	 	酉	子孫
		未	兄弟
応		巳	父母



この卦が出るということは

- ・ (相手と) 小さな違いはあるが、同じようなことをしている
- ・ 異なる様に見えて、相手と似たところがある
- ・ 勝手に孤独感を感じている
- ・ 他人を羨ましく感じてしまっている
- ・ (本筋とは違う) 細かいことが気になっている
- ・ 自分がやるべきことに迷いが生まれている(しかし既に決まっている)
- ・ 腹を括って自分の役割を全うするとき
- ・ 表面的なものに目がいきがち
- ・ 個人プレイに走ろうとしている



黒のボールペン



赤のボールペン

筆箱の中に、黒いボールペンと赤いボールペンが入っていたとします。
それぞれ色が違うので、使いどころや使われる場面や役割が違います。

しかし、ボールペンは「書く」「情報を記録する」「アウトプットする道具」という点では同じです。そのため、ボールペンは同じ筆箱の中に仕舞われます。

あなたの身の回りにある道具も「あなたの生活を快適にする」という目的は同じはずですが、役割がそれぞれ違います。それが火沢睨です。

占断の目安

出来事	役割や方針の違いが生じるが目的は同じ・坎が抜け出る・些細な違いに目がいく・まとまりはない・各々やるべきことをやっている・混沌フェーズを脱しようとしている
交渉	相手も目的が同じ・協業示談したほうがまとまりやすい・協力者がいる場合は明確に役割分担したほうがうまくいく・共通の人物に仲介、仲裁してもらう・双方とも同じ人に騙されている
交際	似ているからイライラする・些細なことでケンカする・既に結婚(同棲)しているような雰囲気・実は共通点が多い相手・ドライな関係・ビジネスパートナーとしては良い
仕事	方針転換があるorあった直後・役割や立場を明確にすると吉・ドライに割り切るとき・同僚と違う道を行く(退職や異動が起きる)・他部署や他社を訪問する機会が出てくる
健康	水や潤いが少なくなるので、関節痛や肌荒れなどが起きる。至るところに症状が出るが、原因はひとつ。
病気	肺・呼吸器系・乾燥肌・精神錯乱・婦人系出血・口内炎・消化器系・食べ過ぎ・嘔吐・最終的には治療できるケースが多い。
人物	細かいところが気になる人・本当は自分と類似点が多い人

卦象連想派生例



- 坎が外に出る
- ▶ 心配がなくなる・恵がなくなる・変化がなくなる・イレギュラーがない
- 見て、楽しむ
- ▶ 観劇・映画・テレビ・動画
- 水が外に出る
- ▶ 噴水・蒸発・揮発・潮吹き・唾を吐く・涙が出る・空焚き
- 傷口が熱くなる
- ▶ 切り傷・擦過傷・炎症・かきむしる・皮膚病
- 器の上に離がのっている
- ▶ 華やかな料理・派手な料理・フランベする料理・ガスバーナー
- 兌のあとに離がくる
- ▶ 大きな分断が起きる・分岐して固定される・大きな決断

卦辞

睽は小事に吉なり。

彖に曰く、睽は火動いて上り、沢動いて下る。二女同居して、その志は行いを同じくせず。説^{よろこ}びて明に麗き、柔進みて上行し、中を得て剛に応ず。これをもって小事は吉なり。

天地睽^{そむ}けども、その事同じきなり。男女は睽けども、その志通ずるなり。万事は睽けどもその事類するなり。睽の時用、大いなる哉。

象に曰く、上に火あり下に沢あるは睽なり。君子はもって同じくして異なる。

【意訳】

睽は大きな方針転換が起きつつある、もしくは起きた直後の状態なので、微調整から始めたほうが良い。そのため小さなことには吉である。フェーズとしては艮(丑寄り)なので、大きく前進することは望めない。

象伝では下記の通りである。睽は火が動いて上昇し、沢が動いて下るような方針の違いが生まれる。二人の女(離と兌)が同居しているが、それぞれが違う方針で行動している。「説」は「外側のものを取り去り(中身を取り出す)」という意味があり、不明瞭な点や体裁が取り去られ、本心・本音が明らかになる。

(兌は中心点から遠い空間的な広がりを目指すため、「外殻」に焦点が当てられる)

可変性が高い状態(混沌)だったものが、少しずつ方針が定まり始める。

「大きな事」はみんなで集まって取り組む事であり、「小さな事」は個々人がそれぞれが取り組む事である。火沢睽はそれぞれが違う方針に進むため、個々人で出来ること(小事)ならうまくいくという解釈もできる。天と地、男と女といった相反する概念はそれぞれがやるべきことをやっているだけであり、「自分ができることをやっている」という点で根本的には同じ方針である。

象伝では下記の通りである。上に離、下に兌があるものが火沢睽である。賢い者は全体に溶け込みながら、自分がやるべきことを全うする。

【解説】

アドラー的な淡々としたドライさがある卦です。マクロ的に見たり、根本的に見ると同じ目的だったりします。

爻辞

上爻	睽きて孤なり。豕の塗を負うを見、鬼を一車に載す。先にはこれが弧を張り、後にはこれが弧を説く。寇^{あだ}するにあらず婚媾^{いさ}せんとす。往て雨に遇^{あえ}ば吉なり。 ▶仲間と方針を違えて孤立する。豚が背に泥を塗る姿が多くの死霊を載せる牛車のように見える。射ようと弓を張るが、やめる。それは敵ではなく婚姻すべき相手だった。雨が降り泥が落ちれば(真相が見えて)吉となる。 表面的には方針が異なる様に見えるが、実は同じ(親和性が高い)事物である。
五爻	悔亡ぶ。豚^その宗^{とも}膚^{がらはだえ}を噬^かむ。往くも何の咎かあらん。 ▶宗族(同族)とは柔らかい肉を噛むように簡単に気が合う。大きく進める時。自分が馴染める場、人が出てくる。力を合わせて大きく進めるとき。
四爻	睽^{そむ}きて孤なり。元夫に遇い、こもごも孚^{あやう}あり。厲^{あやう}けれども咎なし。 ▶周囲と方針が違い孤立するが、根^{ルーツ}が似た男性に出会い仲良くする。危ういけれども問題はない。 やや混沌に戻る。方針を練り直すとき。
三爻	輿^{くるま}の曳^ひかるるを見る。その牛^{ひき}掣^{とど}めらる。その人^{かみき}天^{はな}られ且つ劓^{はな}らる。初めなくして終りあり。 ▶牛によって勢い良く牛車が引っ張られる(暴走する)様子を見る。牛は引き止められ勢いを失ったが、牛車の主は髪と鼻を削がれるような厳罰を受ける。最初は良くないが、良い状態で終わる。 最初の方針をコントロール、保持することが大事。
二爻	主に巷^あに遇う。咎なし。 ▶人々が多い街中で主人(進むべき道)に出会う。咎なし。 雑然とした状態(混沌)の中で偶然、進むべき道が見えてくる。
初爻	悔亡ぶ。馬を喪うも遂^おうことなかれ、おのずと復^{かえ}る。悪人を見るも咎なし。 ▶悔は無くなる。馬を失っても追いかける必要はない。自然に戻る。悪人を見ても問題はない。 一時的に指針を見失うが、おのずと分かるので問題ないとき。

漢字から理解する

【睽】

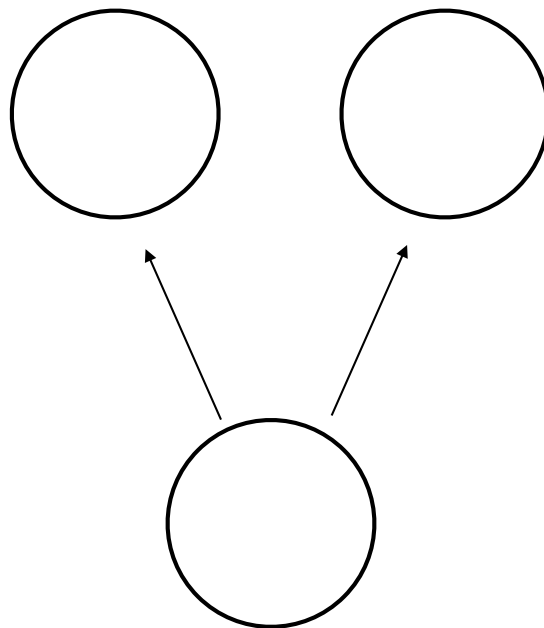
[目] + [癸] から成り立ちます。

[癸]は「グルグル・クルクルと回転したあとに進むこと」を指しています。記号で表現すると、→ という動きになります。今までやってきたことが大きくリセットされて、全く違う方向に進み始めることが「癸」です。

[目]は限定記号です。視覚や目線などに限定されるので、睽は「今までと全く違う方向を目指す(向く)」という意味になります。

そこから、睽はそむく、はなれる、目をそらすという意味があります。今までと違う方針に向かうわけですが、「癸」はもともと混沌で「ひとつ」だった状態ですから、根っこは同じなのです。

【兌】は空間的な固定、【離】は並列です。空間的に固定されたものが2つ並ぶような状態ですので、並行世界が発生します。それぞれが固定されて、定着しているので、どちらか一方を選択するともう一方は選択できません。そのため、火沢睽には「大きな決断」「後戻りできない」というニュアンスもあります。



卦を理解する

この卦は下記の流れを説明しています。

1. 混沌に達して一体化する
2. 各々に新たな方針が形成され分かれ始める

質問者が混沌とした状態にあるのであれば、2の状態になっていきます。もし固定された状態で平穏なのであれば、1が発生します。

変化を望んでいる人物にとってこの卦は吉かもしれませんが、望んでいない人にとっては「これまでと全く違う方針」というのは抵抗が大きいかもしれません。

また、2のフェーズの場合「他者との違いが気になる」という状態になりやすいので、質問者の状態を観察しながら判断していきます。

例題 1 0 – 2

30代 女性 会社員事務職

妹が許せません。2歳年下の妹は、家のことも仕事も何もしないのに、両親からお小遣いをもらって生活しています。ペットの犬を買ってきたはいいものの、世話もせず結局母と私で世話をしています。妹には早く出て行って欲しいのですが、結婚する様子もなく死ぬまでこのような状況だと思うとゾッとします。この先どうなりそうでしょうか？ (時間立卦)

